

「柏崎の橋」

30 臨港八坂橋

りんこうやさかばし

臨港八坂橋は八坂橋の約200m下流、中浜・西港町・西本町にまたがる鵜川河口に架かっており、中浜の海岸道路と中央地区の海岸道路を結んでいる。中浜と中央地区を海岸づたいに結ぶ橋としては、昭和6年に「港橋」という木橋みなとばしがつけられたことがあったが、この橋は昭和20年7月の鵜川氾濫により流失し、その後架け替えられることはなかった。それから36年後の昭和56年1月1日に通行開始となった臨港八坂橋は、市街地と柏崎港との交通の便を図り、柏崎港の利用を活性化することを目的につくられた。具体的には、柏崎港に陸揚げされた積み荷を運び出す場合、それまでは中浜から八坂橋を通り、八坂神社前の交差点を曲がって海岸道路に出る必要があったが、臨港八坂橋を通ることで、海岸づたいに直接新潟方面に抜けることが可能になった。昭和56年10月23日の柏崎日報の記事では「(柏崎港への出入りは)これまで番神を通る県道一本しかなく、道幅も狭いことからいろんな問題や支障をきたしていたが、これができると市内中心部主要道路である海岸道路から一気に入出りできることになり、大変便利になる。」と、歓迎している。また、その後に行われた鵜川激特工事で八坂橋が架け替えになり、通行できなくなった時には、この橋が迂回路として使われた。

●参考にした本

観光の柏崎 (680 K) 柏崎市・柏崎観光協会 発行
わたしたちのまち 大洲 (224 ワタ)
「私たちの大洲」編集委員会 編集
砂丘の大地に生きる (224 Kチユ)
柏崎市中央地区コミュニティ 発行



【写真と図】 臨港八坂橋ができる前の様子

上：昭和20～30年代の鵜川河口（真貝新一氏寄贈写真より）
下：昭和45年『観光の柏崎』の地図。鳥居マークが八坂神社、その下が八坂橋。中浜の海岸道路はまだなく砂浜がみえる。

橋からは鵜川と日本海、みなとまち海浜公園を一望することができる。その眺めが爽快なためか、散歩やジョギングにこの橋を利用する人は多い。秋にはハゼやスズキなどが釣れるとのことで、橋周辺では釣り人の姿をしばしば見かける。また、この橋の橋柱にある橋名などの字を書いたのは、地元の第三中学校に通っていた生徒である。臨港八坂橋は産業振興の意味合いが強く、供用開始の際は開通式や渡り初めなどの特別な催しは行われなかった。しかし現在は当初の目的を超え、海岸線をドライブする人々にとっても周辺住民にとっても、実用性や情緒面において貴重な存在である。